

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 1日

事業所名 ことばの教室 ことのは2号館

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	0	0	1階と2階に分かれているので、本人が行きたいところに行けて切り替えがしやすい	
	2	職員の配置数は適切である	8	1	1	利用者と1対1にて、対応を行っている	職員に欠員が出た場合には、言語聴覚士の指導のもと、臨機応変に他の職員も言語訓練を担えるようにしている
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	2	1	教室は2階に分かれており、階段が少し急になっているが、手すりを付けて対応している。階段の床全面には、緩衝材を敷いている。また、児童が角や壁にぶつかっても怪我が無いように、そこにも緩衝材を取り付けている	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	2	2	終業前にミーティングを実施して、その中で業務改善の話を行っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	3	0	前年度の自己評価の結果を踏まえ、改善できる点は速やかに改善を行うようにしている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	2	0	自己評価の結果は、事業所ホームページにて公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	3	0		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	0	・各自で興味関心のある研修に参加して、それらの内容を職員へ伝達講習を行ってもらう ・毎年、研修内容を募集して、それを踏まえて、毎月、事業所内研修を行っている	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	2	0		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	3	0	初期評価表・KIDS・アセスメントシートにて、児童の状況を分析して、職員間で共有している	保護者への発達への理解の指針となれるように、定期的に発達検討が行っていけるかを今後検討している
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	4	1	担当者が立案を行い、チームでは相談と報告を行う	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	1	0	職員それぞれが子ども達の興味関心のある教材等や遊びを取り入れて、子ども達が楽しく参加できるように工夫している	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	3	0	利用者の生活に必要なことや、学習や発達面で必要な事をその都度確認して、それらを療育や訓練に取り入れている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	1	0	子どもの興味関心に合わせて、集団活動を取り入れながらも、個別活動を重視した個別支援計画を作成している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	3	2	日々のデイリーにて、各自で役割分担を確認している	支援開始前の時間確保が難しいため、前日で行ってもらうようにしている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	1	0	毎回の終礼時に振り返りとその共有を行っている	全体周知を図るために、デジタルツールを取り入れながら、情報共有を改善・工夫を行っている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	0	担当言語聴覚士が、訓練の内容を記録する。終礼時には、情報共有を行いながら、日々の改善に努めている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10	0	0	・半年毎のモニタリングを通して、適宜見直しを行いながら、内容を職員間で共有している ・必要に応じて、担当者会議を行い、他施設との支援に関する情報共有に努めている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7	3	0		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	1	0	担当言語聴覚士や児童発達支援管理責任者が、日々の情報共有を密にして、それぞれの勤務に応じて参加している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10	0	0		全体周知ができていない時があるので、デジタルツールを使用する等、改善案を今後実施していく
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	3	2	契約時に、保護者から医療的ケアについての話があった場合には、必要に応じて主治医と連携を図る	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	4	0	担当相談支援専門員と情報共有を行いながら、必要に応じて担当者会議を行っている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	4	0		対象となりうる児童のために、情報収集を行っている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	5	0	各種研修に参加して、職員間でその内容の伝達講習を行っている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	2	3		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2	5		開催されれば、積極的に参加を考えている

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0	0	利用の際の申し送りの中で、子どもへの具体的な関わり方等を伝えている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7	1	2		現状、集団のペアレントトレーニングとしての提供はできていないが、個別で家庭での子ども達の関わり方の工夫を伝えるという形で、家庭支援を行っている
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	1	0	契約時に説明を行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	0	利用の際の申し送りの中で、子どもへの具体的な関わり方等を伝えている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	1	7		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	1	0	苦情があった際には、事業所内で速やかに会議を行い、検討した対応策を、保護者に伝える。 また苦情があった際には、苦情受付表に記録して、今後の苦情に繋がらないように、事業所内で情報共有を行う	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	5	0	ブログ等を定期的に更新している	
	35	個人情報に十分注意している	9	1	0	個人情報保護に関する社内研修を行い、個人情報保護に努めている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	1	1	職員間にて情報の共有を行い、コミュニケーションに繋げている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	2	3	HPを通して、活動の情報を積極的に発信している	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9	1	0	各種マニュアルを策定して、職員間で共有している	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0	0	消防署とも連携を行い、年2回の避難訓練を行っている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0	0	会社・事業所内に虐待防止委員会を設置して、それぞれ年に2回虐待防止の研修を行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	3	0	必要に応じて、計画立案を行い、児童発達支援計画に記載する	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	4	0	食事提供はないが、アセスメントシートで確認している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0	0	その都度、ヒヤリハット事例を作成して、会社全体にて共有している	